

足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
事 務 局	地域文化課広域施設係 係長 小栗 洋平 係員 鈴江 和俊 係員 中村 友理 係員 竹本 賢貴		
開催年月日	令和5年9月12日（火）		
開催時間	午前9時30分 ～ 正午		
開催場所	ギャラクシティ レクリエーションホール1		
出席者	渡辺 千歳 委員 (東京未来大学 こども心理学部教授)	山縣 朋彦 委員 (文教大学教育学部 学校教育課程 教授)	伊志嶺 絵里子 委員 (東京藝術大学音楽学部 非常勤講師)
	酒井 雅男 委員 (銀座ヒラソル法律事務所 弁護士)	工藤 隆朗 委員 (足立区立小学校PTA 連合会副会長)	四宮 淳司 委員 (足立区少年団体連合協 議会会長)
欠席者	なし		
会議次第	1 開会 2 委員長、副委員長紹介 3 資料確認・説明 4 指定管理者ヒアリング 5 意見交換 6 評価点決定 7 閉会		
資料	資料1 業務評価シート 資料2 業務評価チェックシート 資料3 加点提案書一覧 資料4 条例等一式 資料5 令和4年度協定書 資料6 令和4年度事業一覧表 資料7 令和4年度各種報告書 資料8 令和4年度広報誌一式		
その他			

【開会】

<小栗係長>

皆さんおはようございます。定刻を過ぎてしまいましたけど、これからギャラクシティ評価委員会を開催させていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。私は広域施設係長の小栗と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本委員会は、足立区こども未来創造館条例第24条、及び第25条に基づきまして、区長の付属機関として開催されるものでございます。なお、本委員会は足立区ギャラクシティ運営評価委員会公開規定に基づきまして、公開会議となっております。委員長が非公開とする場合を除きまして、傍聴も可となっておりますので、ご了承くださいますようよろしくお願い致します。また、今年度は、本評価委員会1日で開催となっております。限られた時間での審議となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。まず開会にあたりまして、委員長、副委員長の紹介をさせていただきます。前回現地見学会において、委員長、副委員長について選任いただいておりますので、改めてご紹介をさせていただきます。委員長は渡辺委員でございます。

<渡辺委員>

よろしくお願いいたします。

<小栗係長>

副委員長は、山縣委員でございます。

<山縣委員>

よろしくお願いします。

<小栗係長>

どうぞよろしくお願いいたします。それでは、ここからの議事進行は委員長にお任せをさせていただきますと思います。それではよろしくお願いい

たします。

<渡辺委員>

はい。ただ今から、足立区ギャラクシティの令和4年度運営にかかる、運営評価委員会を開催いたします。開催にあたり事務局から事前説明を致します。

<小栗係長>

はい。それでは本日の進行の説明をさせていただきます。お手元にあります次第に沿って進めさせていただきますが、事前にお渡ししている資料をもとに、進行させていただきます。また、本日別にお配りしている資料もございまして、所見シートとアンケートを別途お配りしておりますので、そちらもご参考下さい。続きまして採点方法の確認でございます。採点はチェックシートに沿って行います。指定管理者評価、区評価を参考に、ご審議を経て得点を決定致します。また所見シートをもとに、評価シートに記載するコメントを決定していただきますが、良い点、悪い点、具体的に記載していただけますようお願いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。以上簡単ではございますが、事務局からの説明を終わります。

<渡辺委員>

はい。それでは評価項目にかかる管理状況の説明について事務局より説明いたします。

<小栗係長>

はい。それでは昨年度に引き続き評価項目のうち、管理状況のチェック項目については、資料の整備状況と評価委員の皆様の裁量が少ない項目となっておりますので、区で事前にモニタリングをした結果を追認していただくというような形をお願いできれば思っております。この後、私から管理状況のモニタリング結果をご報告させていただきます。その後、質疑応答の時間を設けさせて

いただければと思います。修正や追認など、実際の評価につきましては、評価点決定の際に確認させていただきます。それでは、早速、こちら A4横のチェックシート、事前にお配りしているチェックシートに基づきまして私の方からご説明をさせていただきます。はじめに、1番、管理状況についてですけれども、適正な管理の履行というところで、こちら主に仕様書通りに行われていることが確認はさせていただきますが、事前に×となっているクレームがあった件、また、ダブルブッキングがあった、というような事故もございましたので、こちらをメインにお話をさせていただこうと思います。また、所見シートでもこちらの内容について聞きたいというお話もありましたので、ご説明をさせていただきます。まず初めにクレーム。利用者対応に関するクレームが4件ございました。こちらのクレームの内容ですけれども、西新井文化ホールの舞台スタッフ、こちら同一人物なんですけれども、その方に対する対応等に対するクレームという事で4件あったという事でございます。こちらのクレームに対しての対応につきましては、なるべくお客様と接しないような部門の方に配置換えをして対応しているという事でございます。所見シートの中では、こちらの改善について指定管理者のご意見を聞きたいというお話もございましたので、後ほどご質問の際に指定管理者の方から説明させていただきます。続いて(4)の西新井文化ホールダブルブッキングの件でございます。こちらの内容ですけれども、ある団体が2日間西新井文化ホールの夜間枠を予約しておりました。その団体ですが、足立区の後援を受けるというような予定で予約をしていました。まず前提ですけれども、足立区の後援を受けますと使用料が減額されることになります。ですので、そちらの後援申請を受けてから本来は予約をすれば、その際に減額を受けた額で支払いをして予約ができるというような流れですけれども、この団体はこれから後援申請を受けるというような状況だった為に、とりあえずは部屋を仮予約をしました。

そこでシステムの中では入金も終わった状態の申請済みというような状況にしなければいけないんですが、通常の仮予約の時は一応申請済みというような形にしておいて、後ほど仮予約とわかるような形で記録を残しておく、というのがあるんですが、この場合は抜けてしまったという事で、仮予約状態がずっと続いているという事でございました。ただ仮予約状態も、予約を入れた日から10日間経過しますと自動取消が行われるという事で、今回は気付かずに10日間経過したので予約が取り消されてしまったという状況でございます。そして、その予約取り消しが行われた後にそこが空いていると思って、予約を入れた2団体がいて、ダブルブッキングが発生してしまったというような内容でございます。こちらにつきましても、予約受付時の後援申請予定のための延納届というものを新設をして、これはこれから後援申請があるので仮予約中ですよというのがわかるような形で対応しているという事でございます。ダブルブッキングについては以上でございます。また一枚めくっていただいて、こちらの加点のところがあるんですが、こちらについては指定管理者ヒアリングの中で、指定管理者の方からご説明していただくので後ほどご説明させていただきます。職員の勤務状況、体制が適切であるというところですが、それにつきましては従業員名簿等、適正な資料作成がされておりました事を確認致しましたので問題ないとさせていただきます。3番の人材育成の取り組み、3ページ目になりますけれども、こちらにつきましては研修の実施、マニュアルの整備等適切に行われておりましたので、こちらも問題なく実施されているという事を確認いたしました。続いて4ページ目になります。安全性の確保という事でございますが、不具合発生時につきましても適時ご報告を受けておりますし、適切な対応を取っていただいているという事で、こちら問題ないという事で確認させていただいております。また、日常の保守点検等も併せて仕様書通りに行われていることを確認致しまし

た。2番目の施設整備の経年劣化に対応しているかというところですが、こちらは所見シートでもご意見ありましたけども、この建物自体が建ってから30年近く経過していますが、大規模改修というものを今までやってこなかった関係で設備に色々ボロが出てきているというようなところがございます。不具合も結構多いですが、その都度適切な対応をして頂いて応急処置等も取っていただいておりますので、こちらも問題ないという事でございます。3番の利用者が快適に利用できるよう施設の管理が適切に行われているというところでございますが、後ほどご紹介するアンケートの中でも記載がございますが、清潔な施設で快適に利用しているという事で90%以上の方が満足されているという結果も出ておりますし、コロナ対策として消毒等も適時して頂いているというところで、こちらも問題なく実施されております。続いて6ページ目になります。危機管理が適正に行われているというところでございますが、定期的な防災訓練等の実施も確認させていただきました。また台風等も、その際水が漏れるですとか、そういった対応についても確認をその都度やっていただいております。早急な対応をしていただいているというところで問題ないかなというところでございます。7ページ目の法令等の遵守でございます。個人情報保護への取り組みにつきましては、こちらも研修等を受けていただいているということがあったんですけども、1件事故がございます。こちらの事故についてご説明いたします。こちらの事故は、メールを送る際に21名のボランティアスタッフへのメールを送る際に、通常であれば1人だけ宛名に入れて後はBCCという他の方からは見えないような形でメールを送信するところ、全ての方を宛先のところに入れてしまっただけで送信したために、皆さんが全てのメールアドレスが見られるような状態でメールを送信してしまったというような事故でございます。こちらにつきましては、再度ダブルチェックをするとか、そういっ

た対応を徹底するという事で今後は対応していくという改善措置が取られています。8ページ目です。各種法令等の遵守、個人情報以外の法令等につきましても、コンプライアンス研修等受講していただいている、皆さん意識向上に向けてやられているのでこちらも問題ないという事です。最後になりますけども、適切な財務、財産管理というところですが、安定的な経営を行っているというところで、収支がプラスであったことを確認致しました。こちらも問題ございません。その他、適切な財務管理も行われておりましたので、こちらも問題なくマルとさせていただきます。簡単ではございますが、私からの説明は以上でございます。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございます。ここまでの事でご質問のある方、お願いいたします。

<工藤委員>

質問よろしいでしょうか？

<渡辺委員>

はい。お願いします。

<工藤委員>

様々な所でバツになっているところで、改善措置、アクションの部分というところがいくつかあると思うんですけども、多分不具合、事故等を起こしたときは暫定対策と恒久対策の二つに分かれると思っていて、今はどちらでしょうか？事故を起こしてダブルチェックとかは、人的な要素が多いのでトリプルチェックをやるのかって話になるので、おそらくとりあえずの対策。恒久対策はそれが起きないシステムが整っている、本質の部分の対策というところの二つに分かれると思うんですが、今回はこちらは暫定対策で、今後こちらが人によらずに起こらないような仕組みかみたいところは予定されていますでしょうか。

<小栗係長>

メールの送信についてでしょうか？

<工藤委員>

そうですね。メールの送信、ダブルブッキングのような、システムの依存度が高いところに関して、今の対策を拝見すると人が頑張る、以上。みたいな形になってるかと思いますので、何かその後の恒久対策というのはありますでしょうか。

<村田館長>

まず、舞台スタッフのクレームについてお伝えします。一旦、クレームが上がりましたので来館者との距離を置くという意味で、打ち合わせ担当を外しました。舞台操作中心に従事を命じました。その間、意識改革をしていただく必要があるので、一朝一夕にはいかないという風にはこちらも覚悟しておりましたので、長期的に接遇研修を続けておりまして、まずお客様に出られる状態になるまで研修を続けるということで、例えば年一回の社の全体研修のなかの接遇研修ですとか、文化庁監修のインクルーシブシアターを目指す研修なんかもありまして、そこに参加させるですとか、後は他館の同じような公立文化施設に行って、接遇態度を習うような研修を今続けているところです。応急的には一旦、お客様との距離を置いて、その間に意識改善として接遇研修を長期的に今続けております。まだちょっと出せる状態とは判断しておりませんので、そこを今続けているところではあります。もう一つですけれども、ダブルブッキングに関しましては、人為的なミスという事でダブルチェックを心掛けていたんですが、それでも見落としてしまったという事です。じゃあ、システムの改善する方法はあるのかというお話でもあると思うんですけども、先ほど言いました後援申請、事前に取りつければ勿論その場で半額、もしくは無料という対応ができるんですが、どうしてもその場でこれから申請するという場合には、係長も仰ったように、どうし

ても10日仮予約期間超えての申請になってしまいますので、システム的にはそれを一旦落とさないといえますか、予約を保持しなきゃいけない、そこでどうしてもシステムのというより人為的な操作が必要になってきます。そこをもう徹底してダブルトリプルチェックするしかない状態で、今後のシステム改修に関しては1年半後に大改修があつて、システム改修が今後あるかもしれないというのを所管課から聞いておりますので、そういった意見を盛り込んでいかなければいけないかなという風に考えております。メールの対策としては BCC、もう複数人送る時は一人一人手間でですけど送信する。もしくは二人以上の確認、誰か他者に確認させて送る、この二つを今徹底しております。今のところもちろんミスは起きておりませんが、この二つの方法で現在対応しておるところでございます。

<松尾副館長>

BCC に関しましてはシステムの必ず BCC で送信できるようにシステム導入というのも考えましたが、少し予算面で釣り合わない部分が大きく、やはり人為的なチェックでしたり、手順を変えろという方法で対策をしていく事になりました。外部の方、複数メールを送る件数自体もかなり少なく、個別のやり取りが多かったのも、そういったことを現状踏まえまして、マニュアルの変更や、人為的なチェックの強化という対策をすることに致しました。

<工藤委員>

承知しました。ありがとうございます。

<村田館長>

補足ですが、年間の研修計画の中に個人情報保護というのがありますので、全体でやる社の研修もありますし、個人情報保護テストというものを頻繁に行って対策はしております。以上です。

<工藤委員>

ありがとうございました。

<酒井委員>

よろしいですか？一点確認で、予約システムの件なんですけども、後援申請というのはどれぐらいの手続き期間で通るものなのかという点と、それから後援申請が得られた段階でないと予約受付しませんがという風な扱いというのはできるのかどうか、つまり延納ではなくですね。その辺りはどうなんでしょうか。

<小栗係長>

後援申請につきましては、区の方で後援という形の場合は、だいたい手続きをしていただいてから1週間から2週間程度お時間を頂くような形になります。

<酒井委員>

実際例えば、この予約受付の時はだいたいどれぐらい先の予約を受け付ける形が多いんですかね？

<松尾副館長>

ホールですと抽選会で1年先のご予約を取ることができまして、それが一番長いものとなります。一応いらっしゃる団体様からお伺いしてますのは、例えば今年度の催しが終わらないと次の回の申請ができないというようなお話を聞くことがありまして、区の所管課様によって取り扱いが違う部分もあるかなというところなんですけれどもいかがでしょうか。

<小栗係長>

そうですね。まず、足立区の方の後援なのか、また教育委員会の方の後援なのか、というところでも手続きが変わってまいります。方法等変わってくるのですがそれでも1週間から2週間程度で、手続き的には終わるのかなというところです。

<酒井委員>

この問題は後援申請、逆に区の方で受けたときに予約受付をしていないと後援申請自体を受け付けないという事になれば、先に予約受付しないといけないわけですがけれども、この辺りは調整すれば解決する問題かと思うんですけれども。難しいですか？

<松尾副館長>

一応予約自体はお取りするようにはしております。ご予約お取りになった後に後援の申請を各担当の所管課様の方にされる団体様が多いなという印象ではあります。

<酒井委員>

例えば仮後援申請して、実際後援申請が通らなかったと、その場合は補助が少なくてそれでもやりますというときは、いわゆる仮予約が10日間で消えるという事ですけども、その間に後援申請が通らなくてもやりますという申し入れがあれば、それは本予約になる？

<松尾副館長>

そうですね。後援の申請をされて、その結果通ったという場合もちろんですが、もし通らなかった場合でも定額でそのままご予約をお受けするお手続きを踏んでいただくようになりますので、判明した時点で早めにご連絡くださいというように団体様にはお伝えしております。

<酒井委員>

この件は調整すれば改善そうですね。

<田ヶ谷室長>

少しご説明しますと、今回の仮予約を先にするかというと、本来は後援申請が決定するかどうかというのは必ずしも確約できないものなので、たまたま後援決定が取ればその副次的な効果として

半額になるというだけなんです。だから本来ならば予約する時に全額お支払いいただいて、後援決定が取れたら半額お戻しするのが一番わかりやすい仕組みなんです。が、なかなか団体さんが、西新井文化ホールを押さえた時には高額の使用料になるので、先にそれを立て替えというのが難しいという、そこが一番の問題で、後援決定があった後、本予約に切り替えていくのが、運用上やらせていただいていたところなんです。

<酒井委員>

私は大丈夫です。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。はい。それでは指定管理者のヒアリングを始めさせていただきます。まず、指定管理者より令和4年度の事業総括を3分程度行っていただいて、そのあとに評価項目ごとに事情説明と質疑応答を行いたいと思います。よろしくお願いします。

【指定管理者ヒアリング】

<村田館長>

改めまして、ギャラクシティ館長村田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。では、令和4年度の運営状況を数字でお伝えさせていただきます。資料は、令和4年度各種報告書の入場者数②をご覧ください。まず、4月5月に関しては数字は出だし好調となりました。前年対比で言いますと、500%、800%の来館者の数値を記録しています。コロナ禍なので、比較がどういうものというのか置いておいて、数字だけ言うと前年対比500%、800%という数字が記録されてます。そのあとに、昨年オミクロン株が猛威を振るいはじめまして、一旦少し下降します。イベントも、ギャラクフェスタというイベントが中止になり、事業の開催が相次い

で中止になる時期もありました。それでも6～9月、2021年度対比で200%を超える数字で推移しておりました。10月、12月に関しましては少し落ち着いてきて、また1月240%、これは来館者数です。2月、700%。3月、250%ということで、最終的な昨年度の来館者数1,098,630人。前年対比で言いますと、197.6%という事で約200%。2021年度の数字が、561,000人でしたので、約2倍の数値という事で、久しぶりに100万人を超える数字が達成できました。ただコロナ前は、2019年度1,390,000人でしたので、これを一応比較しました。81%、約8割。その前が約6割だったので、徐々に徐々に戻ってきております。ちなみに、もう23年度が始まっておりますが、少しずつ戻ってきております。単月でみると80から85、良い時は90という時期もありました。区、区外の来館者の比較ですが、2021年度は区民の方が6、区外の方は4。これは前回の評価委員会の時もお伝えしました。6:4だったのが、昨年度、区民が4、区外が6。4:6というような、コロナ以前の状態に戻ってきたのかなということで、ギャラクシティの目指す広域的な役割というのが果たしているのかなという風に思っております。2021年度にもお伝えしていたんですが、小学生が減った感じがするというお話をさせていただいたと思うんですが、昨年度、世代別で言いますと30～39歳。これがいつも毎年多い。小学生もしくは就学児を持つファミリー世代。これが2021年6割だったのが、昨年度6割8分、約7割まで増えてきましたので、これで小学生も増えてきたなという印象がございます。事業で見ますと、ギャラクシティのコンセプトでもあります「遊びながら、学べる体験プログラム」やイベントを復活させております。さらに昨年度、足立区制90周年ですので、90周年事業の冠を載せて、10年後の足立を背負う子供たちの未来応援事業として、様々な新規事業にもチャレンジ、挑戦いたしました。特に、足立区にまつわる歴史や逸話、足立区に数百年続く伝統芸能、足立区在住の講師インストラ

クターやアーティスト、足立区の企業等、高い熱量を備えた地域の方で足立区の子供たちを支えていくという、伝統を繋げていくという使命感を持って挑戦いたしました。後ほど、加点提案書でご説明させていただきます。以上でございます。

<渡辺委員>

はい。それでは、管理状況の加点提案書をお願い致します。

<村田館長>

まず加点提案書、ジョブローテーションをご覧ください。コロナ禍でありましたので、当然我々の従事者でもコロナにかかる従事者がいました。その中でも運営止めずに、通常のサービスで開館し続けたいという目標を立てまして、ジョブローテーションを行いました。ギャラクシティの受付や図書受付だったり、子供体験事業、西新井文化ホール、まるち体験、広報、総務、色んなチームで動いておりますので、違う部署でもマルチ的にできなければ、やはり止まってしまうという事でコロナが始まった当初から研修を行っておりました。なので、そういったニーズが増えることで、お互い補充しながら複数の業務を担えるように取り組みをしました。結果、お客様をお待たせせずその場で対応できることが増えましたし、ジョブローテーションを行う事で一部しか見えなかったのが、俯瞰して館全体を見ることができるような効果もありまして、業務の改善、情報共有、部署間での協力、提案が進み、大きなイベント、後ほど説明させていただきますが ABSAI ですとか、鉄道ミュージアムスペシャル、音楽の日など、大規模なイベントを乗り越えることが、対応することができた、という事でございます。今後もジョブローテーションは継続していきたいなというふうに思っております。続きまして館内設備の修繕提案ですが、今回、手すり付きの階段が設置されていたんですけども、片方しか設置されずに、危ないとか不安だとか特に高齢の方のお

声を頂いておりましたので所管と協議しまして色々考えました。ただ、既存のものを購入するのではなく、どうしたら安全かという事を大事に考えまして、特注のオーダーメイドで作りました。裏に階段の絵があります。手すりを両サイドにつけて、これも取り外しできるようにしてあります。公演によっては少し見にくいですが、一番前の方の人は見にくいという意見もあるので、基本的にはつけるんですが、つけない場合は係員を常駐させるとか、階段上げ下げある公演やプログラムの場合は、必ず安全管理できるスタッフをつける、そういったルールを決めまして、安全配慮措置を要件としておりました。そのお声としては安心して階段を下りることができたというお声をたくさんいただきました。少し幅を101cmから96cmにしましたので、通路も通れるという事も出来たので、こういったことも利便性に繋がったのかなと思いますので、こういった提案をさせていただきました。続きまして、救命講習の継続受講です。スタッフのほとんどの職員だけでなく臨時職員、パート・アルバイトも含めて上級救命を受けるという事を継続して行っております。上級救命の場合、ギャラクシティでは、小児子供乳児たくさん扱いますので、小児向けの心肺蘇生、傷病の管理、応急手当などを学ぶコースもありますので、極力受けていただくと、そして3年で切れますので、当然ですけど再講習する、これを徹底しました。その中で、2023年の1月、実際に我々の仲間である職員が倒れてしまいました。その際、日頃学んだ成果ではないんですけども、実際にAEDを使用して心肺蘇生をしました。119番に電話して役所に電話し、手分けして、応急対応いたしました。救護人が発生した場合臆することなく勇気ある行動を目の当たりにしまして、日頃の訓練がいかに関心事という事を学びましたので、これを継続して職員と続けていきたいと、これは勿論ギャラクシティだけではなくてヤオキン商事として社で、共栄株式会社、構成会社も含めて徹底してるところではございます。これは継

続していきたいと思っております。最後に、副責任者の各種法令の学びという事で、施設運営にあたり必要な知識、能力を学びサービス向上を目指すという目的を掲げまして、副責任者が公共施設マネージャー能力検定を受けております。これは、指定管理者サイドで運営される公の施設の管理運営従事者が維持管理含めて安全、安心かつ適切なサービスを実現するため必要な知識や能力を認定するという制度で、これを昨年度二人受けておりますので、そのほかコンプライアンス研修ですとか、ハラスメント研修、労働者クラブ研修、法令の遵守について併せて学んでおりますので、何かあった場合、速やかに従業員と面談をするですとか、すぐに動ける体制で、相談を受けられる体制、物事に対応する体制が今確立できているかというふうに思っております。また、これは継続で、マネージャー能力検定は毎年受けさせていきたいなというふうに思っております。職員の能力向上に努めているところでございます。以上となります。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございます。ここまでで質問等ございますか？

<工藤委員>

質問よろしいでしょうか？

<渡辺委員>

はい。お願いいたします。

<工藤委員>

2022年度の入場者数について質問なんですけれども、その4月5月で非常に体験施設の方は人数多いところだったんですけども、この貸室の方の音楽室であったり、レクリエーションホールの方は5月非常にに少ないところがある、こちらは何か原因があるのでしょうか？

<浅賀副館長>

こちらの利用に関しては、利用制限の定員の半分の人数でご利用くださいというご案内をしていた時期もありますので、その関係もあって少し少ない人数になっているかと思います。

<工藤委員>

利用人数半減ていうのはいつからいつでしょうか？単純に4月と5月で例えば音楽室2を見ると十分の一の人数になっているので、何かこうギャラクシティの方で制限をしたのかとか。

<浅賀副館長>

はい。利用の制限を定員の半分という時期もありましたが、それとともに地下2階のスプリンクラーの設備に不具合がありましてその関係で地下2階の部屋と、スペースあすれちっくの使用ができない時期がありました。それが5月から6月の初めぐらいです。

<工藤委員>

なるほど、ちょうどここが非常に少ないのは使用が中止になっていたという事ですね。

<村田館長>

貸館は1ヶ月くらい全部止めてしまいました。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。無いようでしたら、次に進めさせていただきたいと思います。次はこども未来創造館事業についてです。どうぞよろしくお願いいたします。

<村田館長>

はい。まず、ショート動画甲子園について、広報担当の上木原より直接説明させていただきます。

<広報担当 上木原氏>

ギャラクシティの広報担当及び戦略担当の上木原です。この企画は戦略担当で進めたもので、実施は子供チームと広報チームのクロスで行っております。初心者OKギャラクシティショート動画甲子園。子供達にご承知のように動画の投稿とか視聴はごく普通にやっているんですけども、例えば撮影にあたってのマナー、著作権、権利であるとか、あるいは編集撮影の技術や、喜びの学びの機会は、正直格差があるなと思っております。たとえば東京で言いますと渋谷区は相当進んでやられておりますけども、足立区はまだまだなところもあるかと思います。子供たちにとってそれは大人になった時に一部ユーチューバーの技術ではなくて、ごく普通に営業のプレゼンテーションで動画作ったりしますので、極めて大事な学びの体験だろうと思います。もちろん足立区が加わるという動画のコンテストはあるんですが、子供たちの学びに焦点を当てたものをサポートするという趣旨で始めさせていただきました。去年1回目ですが、なかなか初年度という事で応募が大変だったんですが、ユーチューバーの方、あるいは映画監督の方がワークショップをしまして、徐々に応募を広げました。最終的に56作品の応募があり、まずまずの成果だったと思います。1位は「私達のギャラクシティ」という、小さい姉妹を抱える親子の方のほうで、お姉さんが生まれて二人目が生まれる。それぞれに一人遊びだったのが今度妹と遊ぶみたいな、家族の成長とギャラクシティとの関わりを捉えた非常に素敵な作品になっております。もしよろしければご覧ください。それだけではなく、今、広報は SNS を非常に取り組んでおりまして、その活性化も目的でありまして、この期間中、動画の視聴回数が5000を超えとか、途中でユーチューバーの方がこれを取り上げた投稿が、なんと230万インプレッション。ざっと言うと230万の方が観た。去年のギャラクシティの SNS、もうダントツでトップでございます。そういった意味でも、当方の SNS 効果にも貢献できたかなと、今年もこの10月にコン

テストを発表する予定です。私からの説明は以上です。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございます。

<村田館長>

続きまして、科学分野の事業充実、遊び、創作、科学体験事業、ご覧ください。目標としましては、科学事業200回。年間通して科学を展示、とにかく絶やさずに楽しんでいただく、体験していただくことをテーマに取り組みました。取り組みとしては、北海道名寄からクリオネを取り寄せましてこれを展示して生態を観察したり、6月から11月はハヤブサ2の小惑星リュウグウで採取したサンプルのレプリカですとか、8月には米村でんじろう先生のサイエンスショーが2回行われました。約1300名が観覧し、ご好評頂きました。11月にジェームス・ウェッブ、宇宙望遠鏡、天体写真の展示、11月から1月にかけては皆既月食、スケッチ展。参加していた皆さんにスケッチを募集して館内に掲示。ホームページにも掲載させていただきました。もう一つはこれも初の試みで、国立科学博物館と連携しまして、ダーウィンを驚かせた鳥達という、巡回展示と一緒にやらせていただきました。これも展示だけではなく、それを解説するガイドツアーも土日中心に実施いたしました。2月は国際科学映像祭ドームフェスタ、これは世界的な注目も高いんですけども、国内外からドーム映像作品、及びドーム映像作家をお呼びしてクリエイターも参加して、色々と科学映像を楽しんでいただきました。その他、子供達向けに小学校高学年向けにロボラボ、キットのライトレースカーを開催したり、これは定員がうまり、キャンセル待ちもありました。また、ロボット遊園地、これは頻繁に今でも行って、パイプロボットをコントローラーで動かすという、こういったのも新規事業として実施しております。数値的に、科学の実験、これは昨年度評価委員会でご指摘

ありましたが、69回でした。昨年度に関しては、約5倍、327回の体験事業を行うことができました。現在、内部でサイエンスプロジェクトチームを作っておりまして定期的に事業計画を企画しておりますので、今後も327回を超える事業展開をしていきたいと考えております。続きましてがんばるウォール活用事業の拡大です。普段、がんばるウォールですが、主に土日祝日営業しておりますが、平日にも運用して放課後の子供たちや、平日の夜だったら大人たち、利用回数を増やしております。具体的には、月曜日、水曜日の放課後の時間帯ですとか、金曜日、大人の時間帯を設けております。ただ来るだけでなく当然記録として残していただいて、次これを超えていただくという新たな目標を、記録することをして頂きたいという事です。ギャラクシティマスター。これは別にがんばるウォールだけではないですが、放課後にやっております色々な事業を体験していただいて、増やしていただくと得点がもらえるという、ギャラクシティマスターという制度を作り、子供たちも参加しております。取り組んだ結果、クライミングの事業、これは土日、長期休暇、放課後は除いてですが、2021年度54回を超えて、2022年度105回と立派な数字を記録させていただきました。現在も続けております。2023年度、大人の夜間の方もリピーターが増え、定着しつつあります。今年の夏休みに、クライミングの大会も開催予定しております。続きまして子育てサロン事業です。タイトル「親子で安心して遊べる場に」。近年の共生社会において、やはりどんな人でも利用していただくというのは当然あることではありまして、ギャラクシティでも取り組んでおります。どんな親子でも入りやすい子育てサロンにして、イベント参加しよう。1万人を目指すという目標のなか、事業展開しました。「障がいのある子もいない子もみんなで遊ぼう」というタイトルにもなっておりまして、これは2021年度から始めて、2022年度でも継続して行っている事業でございます。分け隔てなく、子供たち、その保護者で交流していた

だくことを目標にしております。また、昨年度5月に梅田の「エル・ソフィア」で子育て支援フェスタというのを出張して行いました。ここでもインクルーシブ広場の中でも、来ていいよ、体験していいよという広場を設けて、その子供を預けながら子育ての専門の講師を呼びまして、お母さんたちの話を聞いていただくというプログラムを設けさせていただいております。これも好評でした。子どもを預けながら、普段聞けない先生の話聞いたというご意見もいただいております。子育てサロンにしましては、やはりイベントが交流するきっかけとなると思いますので、ほぼ毎日ここに書いてあります「親子で工作」「読み聞かせ」「はかってみよう身長・体重」の他に、新たに「お誕生日会」というイベントを設定し、更に来た方同士で交流だけでなく我々スタッフと来館者の交流を図るという意味で、非常に効果的な事業になっております。「障がいがある子もいない子もみんなで遊ぼう」は、計297名の方にご参加していただいております。子育てサロンにしましてはですね、年間16,150人の参加がありまして、かなりリピーターも多くいらっしゃって、昨年度は単純比較はコロナ禍ですと出来ないとは思いますが、2,622人に対して16,150人の参加がありました。先ほど言いましたスタッフと来館者の交流も出来ておりますので、相談件数も比例して増えております。343件という事で、2021年度よりは、51%増えてるという事になっております。今後も重点事業であります音楽の日、ジャパンフェスタなど大型イベントと連動して、子育てサロンのPR効果も一緒に行って、更に良い利用率、制限枠はあるんですが、参加していただきたいというふうに思っております。以上でございます。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございます。ここまでで質問はありますでしょうか。

<伊志嶺委員>

今仰っていただいた「障がいのある子もない子もみんなで遊ぼう」という、2021年度から始まっている企画。とてもいい企画だと思います。けっこう広域文化施設、マジョリティとマイノリティと一緒に合わせたイベント体験多くなっていると思うんですが、障がい者の方を集めるのが意外と難しいという声を聞いたこともあって、実際障がいのあるお子さんはどのぐらいいらっしまったのですか？

<村田館長>

仰るように、そんなに数は多くないですが、障がい者施設にもプログラムや、イベント開催のご案内は事前にしておりまして、あとは協力者の中に障がいを持つお子様がいろんなクラブ活動でもそうですし、ママ友たちの、サロンに来られてる方で障がいをお持ちの方もいるので、そのような方にお知らせして来てはいただいております。確かにそんな人数は多くないですが、確実に少しずつはご利用されております。この梅田で行ったイベントも、そこそこ来ていただいております。これ40人というふうに主婦の方々に参加していただいたと書いておりますけど、この時は車いすの方もいらっしまったので、私も行きましたが、5人くらいはいました。あと、普段2階の子育てサロンで行っている「障がいのある子もない子もみんなで遊ぼう」も、増えてはおります。待っているのではなくて、お声がけしております。

<伊志嶺委員>

そうですね、障がいのある方も集まれるといいなと思ったので。あと一つ、「障がいのある子もない子もみんなで遊ぼう」というと、この時は障がいのある子は遊べるけれども、そうじゃないと遊べないっていうようなイメージをちょっと持ちやすいかなと思ったんですけども、普段の子育てサロンにも障がいのある方もいらっしまってますか？

<浅賀副館長>

いらっしまっています。この名称にすることで、普段どこにも参加できないのではないかと思います。の方が来やすいきっかけを作りたいという名称でつけています。あとは障がいをお持ちの方へ、受け入れる体制はこちらでも充実させたいと考えていますので、そういった研修を行ったり、先日も手話通訳士の方に来ていただいて、館全体で研修を受けまして、その方が葛飾の学校の関りがある方なので、その生徒の方に来ていただけるような、ギャラクシティでは障がいを持ってる方も楽しんでいただける所ということもどんどん発信をして、受け入れができていう事もアピールしていきたいなというふうに思っております。

<伊志嶺委員>

ぜひ、宜しく願い致します。

<村田館長>

あとは、我々もちろん職員だけじゃなく、子供たちが来る施設、子供たちに障がい者の気持ちをということで、ボッチャですとかゴールボールという、パラリンピックで一躍有名になったものも、定期的にそのサロンでやったりとか、放課後、子供たちが来れる時間帯で設定してやって、そういった気持ちが少しでもわかっていただくように、もちろん我々もそうなんですが、来られる子供たちにもそういった気持ちが分かっていたくような取り組みも今始めております。結構ボッチャとか来ます、あと車椅子バスケットっていうのも手掛けたことあります。実際に足立区の協会に来ていただいて、車椅子に乗っていただき、バスケットをやっていたく、というような取り組みも今後続けていきたいという風に思っております。

<伊志嶺委員>

ありがとうございました。

<渡辺委員>

他にご質問はないですか？

<工藤委員>

まず、ボッチャについて今お話あったんですけど、今、小学校でもボッチャの体験授業がありますので是非そういった形で、誰でもできるスポーツって、私も結構ボッチャをやってきたので、去年お祭りとかでもしたので、まずそういった誰でもできるという、凄く参加がハードル低いところからやれるというところが非常にいいなと思いましたのでコメントさせていただきました。一点別の話で Twitter のアクティビティで230万インプレッションってお話があったと思うんですけど、その230万のインプレッションがあった結果、来館者数の影響とかってというのは何か関連性ある結果はでてるんでしょうか？

<広報担当 上木原氏>

230万インプレッションについては後でご説明しますが、来館者の影響という事で言いますと、まずホームページを見る数と来館者数というのは非常にリンクしておりまして、ホームページを年間でコロナ前40万程ありまして、ホームページの内アンケートくれる方が3割なので、150万の3割程度とするとちょうど合うんですけど、ホームページを見る数が上がるとやはり来館が増えるし、それを広報施策として、情報誌が出た直後にホームページを見た人があがったかとか、そういう数字の把握は全部しております。インプレッションについては、このインプレッションが上がった日とその直後に来館、これイベントインプレッションですから、ちょっと離れちゃいますから個別のインプレッションの数字は見てませんけれども、SNS、イベントを取り上げた時は、そのイベントの申込とか、来場は見ております。これについて言うと、取り上げられたのが自分たちのワークショップの直前位のもので、ちょっと前のもので、直接効果かわかりません

けれど、先に申し込みは埋まっていたものですから、そこは把握しておりません。ただし、SNS 制作それから情報誌については、来館者数、申込数、それからホームページへの誘因というのは常に定例会でもご報告しておりますが、そこで検証するようにはしております。ただ230万というのは全国にわたる数字で、普通のそれ以外の2位が40万くらいです。だからもう数倍高い数字で、僕らも非常にびっくりしまして、そのあと色々ツイートされて、SNS は非常に盛り上がったという事は確認できております。

<工藤委員>

今後の策としてこのあたりの SNS アクティビティと来館者数って、なかなか要素を分解してっていう難しい部分もあるんですけど、折角これだけ数百万という・・・

<広報担当 上木原氏>

そうですね、いまありますホームページをまず基盤に KPI は真ん中の数字をおこうと思って、ホームページは SNS から来るのか、ダイレクトに来るのか経路がわかりますので、それは随時チェックするようにしています。個別の SNS まではアドホックにいくつか出ておりまして、全部見ておりませんでしたので、SNS は非常に効果が高いというのは実感しております。

<工藤委員>

わかりました。ありがとうございます。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございます。他に何かないでしょうか。無いようでしたら、続きましてこども未来創造館事業の5から9をお願いいたします。

<村田館長>

はい。プラネタリウム、まるちたいけんドームの

事業で、どきどきプラネタリウムをご覧ください。これは、文化ホールもそうですが、乳幼児とや赤ちゃんを連れて来て気兼ねしてしまうという事を避ける、避けるというかなくす。もちろん、子供の情操教育、親御さんの癒しという事で安心してみていただくように、泣いてもお話しても何してもオッケーというようなプログラムになっています。もちろん、泣いても話しても、通常の投影であればお声がけしてちょっと退席をするんですが、これに関しては何しても良いというようなことで始めた番組で、かなり好評いただいております。プログラムのはじめに、うちの子育てサロンに従事している、普段幼児と接しているスタッフが、手遊びなどの遊戯を行って、アニメやプログラムを見ていただくという番組なんです。これがかなり好評いただきまして今定着しつつあります。入場者数、昨年度行いまして2000名、平均58.7名の方にご参加していただいております。アンケートに関しては、満足、非常に満足、入れて88%。かなりご好評いただいている番組となっております。定員も徐々に増やしております、80名から今100名。今年に関しては120名にまで増やしております。これも、定番になりましたので続けていきたいプログラムでございます。やはり、子育てサロンスタッフから聞いてプラネタリウム行ってみよう、プラネタリウムで普段手遊びしてるお姉さんがいるので、子育てサロンへ行ってみよう、と相乗効果もお互いに生まれているという風に思っております。続きまして、ストリートピアノアウトリーチでございます。前回ストリートピアノを始めたというご案内をさせていただいて、依然強化しているところでもありますけれども、11月13日に、千住大橋という駅にありますポンテポルタにストリートピアノの出張を始めてもらいました。10時から14時45分まで、参加者79名、観覧者70名。合計150名くらいの方がご覧いただいたというところだと思います。で、ギャラクシティのストリートピアノを使っていらっしゃる常連の方も演奏しに来ていただいたり、今度はストリートピアノを弾いた

方がギャラクシティでもあるのを知って、そこで来ていただいたり、こちらもお互いに相互作用が生まれているように思います。数としては、参加者2022年度16,030名。これストリートピアノの参加人数です。2021年度は14,032名なので2,000名くらい増えたことにはなりますけども、今回このストリートピアノの出張を行って、効果的になったのは、運営する三菱地所さんとの繋がりができまして、昨年度の3月に今度は子供向けに、工作のアウトリーチで来て貰えませんかという事で参加しました。それを皮切りに、今年度これから工作の出張が決まっております。あとは出張こともおしごとらんど。実際の店舗、ポンテポルタ、商業施設で、その店舗で職業体験をやりませんかという提案をしたところ、引き受けて頂いて、これからこれは計画をする事になりました。これを皮切りに三菱地所さんと提携をしていくことができました。ピアノを持ってくということなんですけども、工夫をしました。ピアノの四つ足に車輪を付けて、移動しやすいようにしました。ギャラクシティにあります、大きいバンがあるんですが、そこに乗せて、我々職員で運ぶことによって、業者に頼むと数十万しますんで、そこも経費節減し更に機動力を良くして、これからも学校も含め広範囲にアウトリーチできたらいいなという事で、今回は11月の設定だったので1回しかこのアウトリーチはピアノに関してはできなかったんですが、今年はすでに竹の塚の駅前で1回、ミントポさんで区の方と協力して出ささせていただきました。秋には綾瀬駅のお話もありますし、実は8月13日北千住のマルイ広場でやる予定だったんですけど、台風で中止になってしまったので、引き続き調整していきたいなという事を考えております。続きまして、区制90周年事業「あだち鉄道ミュージアムスペシャル」という事で、昨年度鉄道が、開業して150周年という記念周年でありましたので、合わせて区制90周年というのもありましたので、記念事業としまして「あだち鉄道ミュージアムスペシャル」という事で開催いたしました。これは我々が

ここを運営してからずっと「鉄道ミュージアム」というイベントをやっていましたが、集大成という事で開催しました。JR 東日本さん、東武鉄道さん、京成電鉄さん、その他足立学園の鉄道研究部、郷土博物館、観光交流協会さん、後は企業の安心堂さん、あとボランティア。様々な企業、団体と連携してイベントを開催することができました。聞くとここによりますと、競合の鉄道会社が、一堂に集まってイベントをするっていうのが異例中の異例というふうに聞いております。更に、埼玉の鉄道博物館に行けば、実際に鉄道がないのに、鉄道イベントにこんなに集まったのは知らない、すごいびっくりしてました。もちろん、N ゲージですとか HO ゲージとか、そういったミニの鉄道を動かすプログラムはたくさんご用意しておりますし、ペーパークラフトなんかも動かせるようにしてラインナップに載せましたが、実際に鉄道がないのにこんだけ集まったのが珍しがられました。一つの特徴として、見てもらうだけでなく体験というのもかなり力を入れてますので、我々の得意でありますこともお仕事体験、現役の駅長に来ていただいたり、車掌に来ていただいたり、車内アナウンス体験を実際に行ったり、あとは西新井の駅長に来ていただいて一緒に写真を撮るとか、やはり本物の方に来ていただいて、自分が子供が鉄道の会社の服を着て一緒に撮るっていうのはかなりレアなイベントだったのではないかなという事で、未就学児から大人の方まで幅広い人に来ていただきました。実際に、JR 東日本の方に来ていただいたのは、中心になっていただいている新幹線運輸事業部という事で、その方が色々提案していただいて、例えばプラネタリウム、映像が映せますので今度は、人気の特急列車がありますので、その VR をプラネタリウムで流してはどうかというような計画をしています。今年また11月に大きなイベントを控えておりますので、そこで色々皆さんにお披露目したいということで、見ていただくだけでなく体験してもらい、鉄道会社にもしかしたら就職を目指す

子もいるかもしれませんので、そういったきっかけにはなったのかなという風に思っております。これはあまり言う事でもないのかもしれないのですが、各社皆さんボランティアで来ていただけてます。これからも協力していただけてという事で、地域貢献 CSR として皆さん来ていただいて、どんどん数を増やしていければなってことで、今は前回一つ心残りだったのは駅弁がコロナ禍で販売できなかったのも、区の所管の方と協議して駅弁を販売すればもっと賑やかになるのかなと今計画しているところでございます。続きまして区制90周年音楽の日、これも90周年事業という事で音楽をテーマに全館活用した交流イベントです。6月11、12日の二日間行いました。6月11日は、ストリートピアノを中心に、人気のストリートピアノ、ピアノ演奏系のユーチューバーの方8名にお越しいただいて、ピアノコンサートを催しました。その他に、プラネタリウムでも一部この方達に開催していただきまして、無料でストリートピアノのコンサートを楽しんでいただきました。あとは足立区在住のピアニスト、白石先生に来ていただいて、ピアノ解体ショーや、ストリートピアノというのが一日目。二日目は白石先生に来ていただいて、プロのピアノをバックにアンサンブル体験を事前に子供達を募って出いただきました。あとは齊藤健太さん、この方は足立区第十四中学校出身で、先日世界的サックスコンクールというのがあったんですけれども、これに優勝した方です。この方に来ていただいて、サックス体験をしていただきました。最後にこの白石先生のピアノとサックスのデュオコンサートというのをホールで開催させていただきました。その他、打楽器を体験していただくプログラムですとか、こちらも見ただけじゃなくて、極力楽器に触れていただけて体験していただくプログラムをメインに展開しております。この6月11日、12日は、テレビ局の営業の方がご覧いただいたんですけれども、このストリートピアノフェスをご覧いただけていて、中でもこのイベントを開催したいという事で、事業協力

の依頼を受けまして、ギャラクシティというよりはヤオキン商事という会社として今回制作協力に携わり、実際4月にも開催させていただきました。最後、まるちたいけんドーム。大人向けの投影について、「星とピアノ」。これは平日の金曜日に大人の時間というのを設けて、投影や上映をしてたんですけども、生解説で、なかなかちょっと延びがありませんで、新たに「星とピアノ」というピアノをバックに生解説するというイベントを企画して、月に一回金曜日行ったら、かなり定着してきたというイベントでございます。毎回30名以上の方が参加してくれて、定着しておりますし、演者にとっても新たなファンが今増えております。後は解説員に関しまして、演出をバックに映像を流しますのでそのスキルもだいぶ上がってきたという効果にも繋がっております。以上となります。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございます。ではここまでで、質問のある方お願いします。

<四宮委員>

以前、まるちたいけんドームだよりというのがあったんですけども、今は PDF でしか出ていないんですか？ホームページ見たら PDF 版では出てきたんですけど、紙媒体では出してないんでしょうか？

<村田館長>

紙媒体もお配りはしています。もちろん PDF も載せております。

<四宮委員>

もし PDF だけだとしたら勿体ないなと思ったんですけど。あれは意外に地味ですけど、なかなか価値があるんじゃないかと私は思っていたので、ぜひ続けていただきたい、もっともっとアピールして良いんじゃないかと思っています。

<渡辺委員>

他にはいかがですか？それでは西新井文化ホール事業について、お願いいたします。

<村田館長>

すいません。時間が無くなってしまいましたので、絞って説明させていただきます。エンタメ興行、「大ひょうげん×祭 ABSAI」という加點提案書をご覧ください。これは昨年の7月30日に市川海老蔵さんが、団十郎を襲名する前に、我々がいつも行っている、子供たちの表現力を養うためにワークショップを行い発表させる大ひょうげんというイベントがあるんですけども、そこに海老蔵さんに総合プロデューサーとして加わっていただいて、海老蔵さんは海老蔵さんで ABSAI 祭というお祭りをいつもやっております、そのコラボレーションの形として7月30日に企画させていただきました。元々この海老蔵さんが所属する事務所というのが、歌舞伎はじめ伝統芸能の先細りといいますか、このままでは心配だと、要するに子供たちに繋げていかなければいけないと、伝統文化の敷居の高さとか、そこをもうちょっと、本質は変えないんだけど、入口を優しくするというコンセプトがありまして、普段歌舞伎が観られない未就学児に見せたいという思いがありまして、我々のギャラクシティのコンセプトと一致しまして、ずっとお付き合いさせていただいて今回海老蔵さんに来ていただくことが実現しております。祭色を出しまして、日本文化と祭という事で、より来ていただけるような環境づくりを行い、縁日やチャンバラ体験ですとか、伝統芸能、歌舞伎も含めてですね、いろんなワークショップを開催いたしました。どうしてもやはり、海老蔵さんの息子さん娘さん、勸玄君と麗禾ちゃんにも来ていただいて、同じような世代の子たちが一生懸命頑張っている姿を、今伝統文化に参加している子達にもぜひ見ていただきたいという思いで来ていただきました。舞台演出をしていただいて、実際に館内を全部見ていただき、実際に書

道ですとか色々な体験をしていただきました。結果、8,013名の方に来ていただきました。オミクロン株がかなり猛威を振るっている頃だったので、開催が危ぶまれたんですが、なんとか実現したという事になります。これは先程の経緯で、お伝えさせていただきました。このイベントを通じて、今度伝統芸能いつやるのと子供の声が我々に届きました。やはり好奇心とかそういった気持ちを、止めることなく持続して、体験機会を増やして行くべきかなと改めて思いましたし、海老蔵さんという効果も当然あります。「大ひょうげん」の知名度、やはり上がったのかなという相乗効果も担えたのではないかなという風に思っておりますし、ここでできたお付き合いは、ずっと続けていきたいと思っております。今年度に関しても、引き続きギャラクシティ歌舞伎というスタイルでオリジナルコンテンツとして、誰でも参加しやすくして続けていきたいという風に思っております。最後になりますが、広報の部門でご指摘が結構ありましたので、上木原のほうから現状ちょっとお伝えしたいという事で少しだけお話しさせていただきたいと思います。

<広報担当 上木原氏>

ありがとうございます。所見シートにアンケートに答えた区民の利用者の中に広報誌を知らない方がいる等とありましたので、補足の説明をさせていただきます。こちらは私共の来場者アンケート毎月50人から100人取っております、この場合は情報誌の認知ではなくて認知経路、「何をきっかけで来場しましたか」で対象をかけているんですが、年間通してトップはホームページ。2位がロコミ。区の広報で、広報誌は9位になっております。ところが、広報誌を出してる月、出していない月があるので、去年は7月が一番最初でございます。7月で言いますとギャラクシティ広報誌で6%で5位になっています。次は9月、11月、1月と、もちろんこのアンケートの数字で残念ながら効果が見られないところもあるんですが、1月とも上がって

きます。アンケートについては、こういうアンケートもあるという事でございます。それから先ほど言いました、私共がものすごくアンケートを重要視しておりますのが、ホームページ誘導の効果です。これ発行日前後でホームページの増加がどれだけでたかというのを毎月やっております。7月こちらのページですけれど、7月は12日に発行しまして、これ五月雨的に18日まで一部配架が遅れてあるんですけれども、一番7月中で高かったのは7月16日の土曜日です。これは7月中の週末の中でも一番高い。もちろんホームページの流入というのは情報誌だけの効果じゃありませんけれども、こうやって差分を前後で比較する作業をしております。次は9月です。9月は週末にかかったものですから、週末にかけてぐんぐんと数字が上がっています。次は11月です。11月は16日発行で、少しずつ上がっていく傾向です。1月と3月は比較的上がった直後に上がるという事で非常にホームページは色々な要因で増えますので、まずまず「ふらっとギャラク」については上がっておると考えています。それで一つは、「ふらっとギャラク」は去年、21年22年とコロナ禍対策で刷っても情報紙を配れないときがありました。スリム化しまして、情報紙を絞って届けるようにしました。ホームページ誘導を狙いにしています。ですからホームページを見て、情報紙を見てホームページを見て来場する方が多いと考えられます。それがアンケートになかなか、ホームページとは答えても情報紙という風に答えづらい面があるのではないかと考えています。むしろホームページ誘導という形で広報が109万に貢献できたのではないかと思います。それで区の方にいただいたアンケート非常に貴重なデータですけども、この数字が高くなって申し上げませんが、予算配分の中で効率的に集客をどうしていくのかという観点で、ホームページを併用しながらやっていって、あと来場者は半分以上が区外の方なんです。情報誌というのは区内の小学校と区内の施設中心に配っております。一部他の会

館にお配りを致しますけど。そういった意味でこの数字はやや割り引いて見る必要があるかと思えます。少し補足的にご説明させていただきました。

<渡辺委員>

ありがとうございます。ここまででご質問はいかがでしょうか。

<伊志嶺委員>

はい。

<渡辺委員>

はい。お願いします。

<伊志嶺委員>

西新井文化ホールの資料の中で、区民参加型公演区民アーティスト出演という加点提案書のところで、失敗のうえに成功があることを体感し自己肯定感を向上していることが見られるとか、色々成果が書かれているのですが、実際に何か子供に対してアンケート調査や、イベントを体験してみでの感想とかそういうものはあるのでしょうか。

<村田館長>

やはり我々も、やりっぱなしでは当然まずいですから、効果検証という事で、何度かやったのは、ワークショップ始まる前の映像とワークショップ終わって発表終わった後の映像を撮って、それをダイジェストでお母様に渡してどれだけ変わったか見て下さいという事もやりましたし、子供に直接、終わった後に感想を取っております。そういうのは毎回やるようにしております。

<伊志嶺委員>

そうですね。今すごいこの子供にどのような貢献要因があるのかっていう、各国でもすごく色々なデータ取られていて、日本がすごく遅れている部分なのでギャラクシティさんのこの取り組みが継続

的にしかもすごく数も多いので、そういうデータが取れるとすごく発信力あるんじゃないかなあと考えたんですね。それがお母様たちに、子供に実際こういう効果があるっていうのが、なかなかこの文化価値や、芸術文化の社会的価値とか芸術価値とか伝わりにくいので、それが見える化して、このギャラクシティさんから発信できるといいなと思いました。

<村田館長>

変わった様子がやっぱり保護者がわかると凄くお子様の色々な発見があると喜んでいただくので。

<伊志嶺委員>

なかなか成果って簡単に出てこないと思うのですけど、何が子供に貢献したのかっていう、その部分はきっと分析できるんじゃないかなと思うので、その辺りをもっとデータ化できるといいかなと思います。

<村田館長>

そうですね。これは文化事業だけではなくて、子供の扱う事業が多いので、効果検証をいろんな形で続けていきたいなと思います。

<伊志嶺委員>

はい。以上です。

<渡辺委員>

はい。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

<酒井委員>

ここで、アンケートの取り方なんですけども、アンケートを見てみると、要望とか感想とか質問、苦情があるんですけども、苦情はほとんど集まってないというのがまず印象に残りました。あともう一つは、意見。16番、意見というのがあるんですけども、

ここにはアンケートの答えが良いか悪いしかない
っていう風にあってですね、普通がないっていう
風に指摘があるんです。やはり継続してアンケー
ト取っていくにあたって、普通がなく良いか悪いか
だけだと、やはりその年度の利用者のその方の気
持ちがストレートにあらわれないなという風に思っ
たんですが、この辺りは改善していただければと
思うんですけど、これは事業者さんのほうで可能
なんでしたっけ？

<浅賀副館長>

アンケート自体は区に作成していただいている
ものです。

<広報担当 上木原氏>

これは、あいまいな回答を防ぐために敢えてふ
せる回答になってますけど、私どもが来館者アン
ケート五段階で真ん中を作って、良い悪いの評価
も個別にとるようにしてますけど、ちょっと様式が違
いますので今ご覧いただいているものは。

<酒井委員>

はい。ありがとうございます。

<渡辺委員>

他にはいかがでしょうか。無いようでしたら、指
定管理者ヒアリングをここで終了させていただき
たいと思います。ここからは意見交換のために非公
開とします。ギャラクシティ運営評価委員会公開
規定第6条の第1項の規定により傍聴人の退場を
求めます。なおこれ以降は意見交換、評価点決
定のため、傍聴人は再度入場はできませんので
ご了承ください。

【指定管理者退室】

【休憩】

【評価点決定】

<渡辺委員>

評価結果をお願いします。

<小栗係長>

一点ちょっと確認をさせていただきたいんです
が、事業効果のことも未来創造館事業取り組みの
ところで、1番ですね、利用促進に向けた取り組み
というところで、担当課は5点を付けたところを4点
というような話になったかと思うんですが、こちらは
加点提案書に対してのマイナスになりますか？

<渡辺委員>

はい。

<小栗係長>

では、ショート動画甲子園のですね？分かりま
した。そしたら内容の方固まりました。

<渡辺委員>

はい。お願いします。

<小栗係長>

報告いたします。合計点が150点でございま
す。下側の評価基準に照らしまして、評価は A と
なりました。

<渡辺委員>

はい。150点で、総合評価もAという事で、コロ
ナが明けてやっとうりやることができるようになっ
てきたかなと思います。残りはこの所見シートをま
とめていくんですけども、この部分はぜひ書い
てほしいというようなことがありましたら、ぜひお知
らせ頂きたいのですが。時間もかかってしまいまし
たので、よろしければ担当課と私とで考えさせて
いただいて、この中からピックアップしてまとめた
いと思います。それでよろしいでしょうか？

<各委員>

お願いします。

<渡辺委員>

令和4年度運営にかかる運営評価委員会の評価がまとまったという事で、事務局にお返しいたします。

<小栗係長>

はい。本日はどうもありがとうございました。お疲れ様でございました。評価につきましてですが、今後教育委員会、また足立区議会への報告を致しまして、11月ごろを目処に、区のホームページ上にて公表させていただく予定でございます。閉会の挨拶と致しまして、山縣副委員長の方からこの後ご挨拶いただければと思います。

<山縣委員>

はい、皆さんお疲れ様でございました。以上を持ちまして足立区ギャラクシティの令和4年度運営評価にかかる運営評価委員会を閉会いたします。ご苦労様でした。ありがとうございました。

<各委員>

ありがとうございました。

【閉会】